

Title	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 95
Author(s)	
Citation	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 (1960), 95: 27-32
Issue Date	1960-08-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/186952
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館 月 報

No. 95

1960. 7月(8月5日)

録 事

7月2日 ヤマハスクーターを購入。操縦を練習し、水族館・実験所のほとんど全頭が乗れるようになった。

7月13日 布施委員は中海・穴道湖・美保湾の生物調査のため出張。1日帰所。

7月25日 船繋場災害復旧工事について打合わせと設計のため京大技術課の吉村芳治技官来所。実験所敷地の南方にあった船着場を北側に隣接して復旧するもので、台風来襲の予想される8月末日までに基礎工事をおわることがのぞまれている。

7月上旬より水族館内部の模様替えを進めているが、7月末日までに水槽の遮光板、南・北水槽室の向の中庭の塩化ビニール材の遮光板、水槽室から便所へのわたり廊下、北水槽室と標本室の向の空地に作った予備水槽、南水槽室の魚族用大水槽と小形水槽3個の基礎コンクリート打ちが完了。8月上旬には化粧塗が行われる予定。

業 務 概 況

㊦ 7月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水族館発売	個人	5290	35305	511	2111	5801	37416
	団体	15926	84988	—	—	15926	84988
交通公社発売		3762	31325	—	—	3762	31325
明光バス発売		12534	83561	694	2238	13228	88799
合 計		37512	233179	1205	4349	38717	242528
無 料	大阪市立雲気科学館買地					44	863

団 体 : 一般 101組, 学生 40組 合計 141組

㊦ 7月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	702,080	4,241,339
窓口売上	338,399	2,087,586
交通公社クーポン	65,991	544,363
明光バス観光券	297,690	1,609,390
※		
予金・積立金利子	60,164	293,045
手数料	34,315	207,136
絵はがき拂下	22,600	1,242,90
パンフレット拂下	6,160	39,850
興業拂下		200
雑 収 入	1,265	1,805
合 計	826,584	4,907,665
※ 明光バス観光券未収分	大人券 14139枚	
	小人券 716枚	

㊦ 7月の支出

水族館経費

費 団	金 額	累 計	備 考
人 性 費	124093	495510	
会 議 費	5300	101037	
備 品 費	150000	206300	ヤマハスクーター
消 耗 費	34142	107251	
事 業 費	41483	175871	
租 持 費	2600	16460	
其 他 諸 経 費	41684	327842	
積 立 金	136415	892241	
合 計	535717	2322512	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	46471	
奨 学 金	—	60000	
備 品 費	6825	53045	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	382500	382500	南極生物報告 10号
役 務 費	—	66220	
合 計	389325	608236	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	46489	181789	
備 品 費	—	1200	
消 耗 費	2350	2350	
役 務 費	—	3980	
合 計	48839	189319	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
水族館建築に関する推進費用	620	
自働式フランクton採集機試作費	22830	
合 計	23450	109046

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	535,717	2,322,512
実験所経費	389,325	608,236
伝物館経費	48,839	189,319
臨時費	23,450	109,046
合 計	997,331	3,229,113

◎ 7月末現在高

前月よりの繰越	1,849,299
今月の収入合計	826,584
今月の支出合計	997,331
現 在 高	1,678,552

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	32757	38717	+ 5960
	— (29) —		

水族館記事

- ◎ 南水槽室内部模様替えのため、N0.23水槽とN0.26,27,28水槽はとりのぞかれたので、N0.23水槽の丸バットは、南水槽室から中水槽室へ行く新しい通路の北側に当分の間移し、N0.26のウツボはN0.13およびN0.24へ、N0.27のタイマイはN0.32へ、N0.28の潮だまりの小魚はN0.14へ移した。
- ◎ 7月に入ると採集物も豊富になった。なかでもクマノミは20日に30個体、30日に2個体、31日に1個体計6個体がとれて、水槽内のサンゴイソギンチャクと共生するようになっている。ソラスズメタイは31日現在23個体、その他にカゴカキタイ、ネンブツタイ、チョウチンウオ、ニシギベラなども採集されて、熱帯魚の水槽をにぎわしている。
- ◎ 28日四双島でイバラカンザシが約20個体程ついている塊状サンゴを2個採集して観覧に供している。
- ◎ イトマキヒトデを中旬に60個体採集した。
- ◎ ノコギリカザミが下旬に1個体入槽。
- アカウミガメが7月を通じて2個体、アオウミガメが1個体入槽した。アカウミガメは、サマーハウス下の浜へ産卵によってきたものを捕獲した。アオウミガメは岸本でとれたもので、背甲長約35cmの小さいカメである。
- ◎ 7月31日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計121種、2122個体以上で、その内訳は次の通り。

ヒドロ虫類	1種、	カブトガニ類	1種、	タコ類	1種、
ウミトサカ類	1種、	フジツボ類	1種、	ウミシタ類	3種、
ヤギ類	6種、	エビ類	7種、	ヒトデ類	4種、
イソギンチャク類	7種、	ヤドカリ類	3種、	ウニ類	10種、
イシサンゴ類	9種、	カニ類	3種、	ナマコ類	5種、
スナギンチャク類	1種、	二枚貝類	5種、	ホヤ類	1種、
ハナギンチャク類	1種、	巻貝類	6種、	軟骨魚	3種、
ホウキムシ類	1種、	アメフラシ類	1種、	硬骨魚	3種、
多毛類	2種、	ウミウシ類	2種、	カメ類	3種、

来 訪 録

- 7月7日 三重県立大学桂野季雄教授は本州に寄生する提脚类採集のため来所。
- 7月13日 郵政省電波研究所の小林常人、入岡田博、山田勝啓の3氏は東京と鹿児島のはほ中間に位置する当所をえらんで、地上数百米上空の電離層の観測のため来所。構内に高いアンテナをたて20日間の継続観測実施中。
- 7月11日 大阪市立電気科学館長中村一雄氏他館員14名水族館見学。
- 7月17日 第五管区海上保安部整備救難部の吉富芳太郎氏、神戸の西村享典研究所西村雅司氏は水中カメラのテストのため来所。
- 7月19日 岡山ノートルダム清心女子大学の西堀幸吉氏はナガウニの棘にふくむ色素の成分研究のため来所。
- 7月20日 横須賀市伝物館に来日滞在中の米国アリンストン大学教授の Frank H. Johnson 伝士夫妻と羽根田館長は発光性ニ枚貝ツクエガイとキンメモドキ採集のため来所したが、ツクエガイは惜しくも発見できなかった。一夜招待して夕食を共にし、よもやまの話がでて盛会だった。
- 7月26日 京大名拳教授（前京都学芸大学学長）山内得立伝士夫妻来所見学。
- 7月27日 下関水産講習所漁労実習船2隻に塔乗して学生21名、教官3名が来所、所内見学、翌日島島で磯採集実施。
- 7月26～28日 和可山県教育委員会主催の中小学校教員の理科実習講座は7月25日～31日まで田辺市で開講、A,B,C3班にわかれて3日間実験所付近の海産生物の観察と採集及び所内見学を行った。

昭和35年8月5日 (NO. 95)

編集兼
発行者

山 路 勇

発行所

瀬戸 嶋 崎 突 験 前 振 興 会
和 可 山 泉 白 浜 町
瀬 戸 嶋 崎 突 験 所 内
(Tel. 白 浜 温 泉 515)